

小便の形

中学 3 年の夏休み、理科の自由研究で「小便の形」という研究発表を行いました。(ちなみに前年は「新聞各社の天気予報の当たる確率」といういやらしいヤツでした。)

きっかけは、その頃たまたま読んだ「科学朝日」という雑誌でした。そこには、「いろいろな流水の形態」というような題目で、空き缶の底に様々な形状の穴をあけ、そこから流れ落ちる水流の形態を観察しようという実験が掲載されていました。穴を長方形や、くの字、十字、S 字やだるま型などによって、流水が棒状になったり、捻れたり、数珠状、放線状、はたまた途中で枝分かれたりすると、なんともファンタスティックな流体力学を見せてくれるというのです。

私は思わず膝をたたきました。これは自由研究のネタに使えるぞと。しかし、科学朝日をそのままパクるのは癪です。それに、空き缶に穴を開けるのはかなり厄介で面倒くさそうです。指にケガを負うのは目に見えているし、出来れば空き缶集めすらやりたくない・・・というところで、たまたま手近にあった自分のチンポでやってみることにしました。

さて、それからの数週間は自分のチンポとの格闘でした。毎回小便をする度に、指で尿道口を変形させ、時には包皮まで動員して、様々な形状の尿線に挑戦し続けました。そして努力の甲斐あり、雑誌で紹介されていた流水形態は概ね再現できました。(“途中から枝分かれます”という離れ業だけは、どうしても出来ませんでした・・・)

晴れて研究発表時には、尿道口の形状とその時の尿線の形態、さらにはその時の“指使い”“まで図入りで解説し、同級生の拍手喝采(と理科教師の苦笑)を浴びました。

ところで、この陰気で不浄な研究を続けているうちに、私はあることに気づきました。それは、「普通に排尿しても尿線には捻れがある」ということです。しかも常に「右回り」の捻れが。空き缶の実験の場合、缶の裏から見て S 字に穴を作ると右回りの捻れが、逆 S 字にすると左回りの捻れができます。ということは、私の尿道口は生来の S 字構造になっているわけです。

この右回りの捻れというのは非常に気持ちの良いものです。時計の針も、ねじ回しも、トンボ捕りも右回りだし、三塁コーチの腕は時に左回りのこともあるけど、必殺の円月殺法は右回りです。そして何より、北半球では排水溝に吸い込まれる汚水は見事な右回りの渦を形成します。したがって、右回りの捻れ小便を便器にたたき込むのは、必殺のコークスクリュードライバーを卑劣な豚野郎の顔面に炸裂させるように爽快です。

これがもし、左回りの捻れだったらと思うとぞっとします。まるで便器の汚水を尿道に吸い上げているような錯覚にとらわれ、夜ごと汚物にまみれる悪夢にうなされ、いずれ発狂するか、運が良くても慢性前立腺炎になってしまいますでしょう。

排尿困難で悩んでいる男性患者さんの尿線が左回りの捻れの場合、外尿道口に形成術を加え、右回り小便に矯正してあげれば、意外な効果があるかもしれません。